



ストレスを中心とした情動（感情）と認知（思考）の相互作用メカニズムの研究

保健福祉学部 人間福祉学科
教授 中谷 隆（なかや たかし）

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4528号室
Tel 0848-60-1239
E-mail nakaya@pu-hiroshima.ac.jp

専門分野： 学習認知心理学, 認知行動療法, 臨床教育心理学

キーワード： ストレス, 学習, 思考, 社会的認知, 対人態度, 感情, 情動, パーソナリティ, 精神的健康

対処, それに対するマネジメントのあり方について, キャリア意識の発達との関連から分析しております。

● 現在の研究について

自己概念やパーソナリティの安定途上にある青年期の若者たちを対象に, 彼らの心理・行動的特徴を主に質問紙調査ならびに質的分析などで解析しています。

(理論面では)

○対人態度の違いに応じて3つのタイプに分けて, それぞれの心理的特徴を愛着の観点から特徴づけしようとしている。

○対人関係にストレスを感じやすいタイプの心理的特徴とその社会的背景が明らかになりつつあります。

○精神的に不安定な状態にある青年期の若者を対象にしたことで, 認知（思考）と感情（情動）のダイナミズムが社会的要因も含めた形で理論的に新たにモデル化できるところまでデータを集積しつつあります。

(実践面では)

○個人面談とグループセッションを通じて, ここに応じたストレス・マネジメントをアドバイスしながら, その効果性を検証しています。

○教育機関等と連携して, 不登校生徒の自己概念やストレス耐性やストレス対処法について分析しています。

○それを踏まえて, 彼らに対するキャリア・プランニング能力の増進も念頭に置いた心理支援プログラムを開発・実践し, その効果性を現場の中で実践的に検証しております。

○対人援助職にある人たちのストレスの内容と

● 今後進めていきたい研究について

○個人によって異なる認知構造（本人も自覚できていない物事のとらえ方の枠組みや癖）のあり方を検出するための調査やテスト手法を確立する。

○決して合理的でない人間の思考の錯誤や誤信のプロセスを分析してみる。

○行動分析学と認知行動療法の枠組みの下で人間の不適応状態を解明する。

○社会の変化とともに変わりゆく心の変化の関係を適応的視点から法則として把握できる理論モデルを構築する。

● 地域・社会と連携して進めたい内容

○心の健康増進を目的としたセミナーやワークショップの開催

○諸種の現場における心の健康増進を目的とした支援プログラムの開発と実施

○想定される連携先として, 福祉施設及び医療機関や学校・教育機関そして自治体が考えられる。

● これまでの連携実績

○自治体設置の適応相談室での実践

○通信制高等学校におけるソーシャルスキル向上のための教育プログラムの開発と実施・検証

○自治体から受託された, 若者の子育て支援に関する調査研究